LANDHUIS in Sakawa

設計：内野設計

自然と集落の境界上に立って双方に共鳴する家

内野輝明 | Teruaki Uchino

敷地は高知市から西へ約20km、化石の発掘と銘酒「司牡丹」で有名な佐川町にある。南には山々、東には谷川が流れ、北の谷の対岸にはJRがトコトコ走り、周囲にはのどかな風景が広がる棚田…。オランダ人男性と高知出身の奥さんが四国中を探し歩いた末に辿り着いた、彼らの“終のすみか”にふさわしい場所である。

「北の集落側に対しては閉鎖的に、自然に隠れるように。南の自然側にはオープンに。家の周囲には果樹を始めさまざまな植物を植え、それらの世話をしながら暮らしたい。きれいだけではない、いわゆる“田舎家”でありたい。そして6面断熱、日本標準の2倍以上の断熱を…」などが建主からの要望であった。

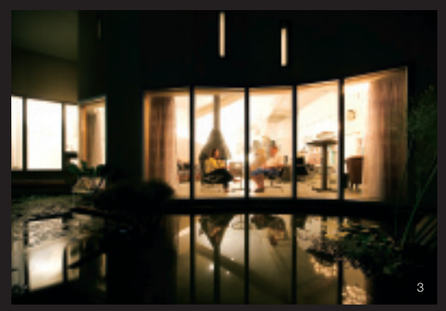
敷地内のどこに建てても何枚かの棚田をまたぐことになるため、まずそのレベル差をどう活かすかを考えた。平面的には2つの矩形を南の山(自然)に向かってハの字に高さを違えて据え、その間に広がる扇形の大空間をリビングとした。構造的にはその扇形の部分がRC造で、木造の2つの矩形はそこから羽のように生えているイメージである。2つの矩形のうち、ダイニング、キッチン、ユーティリティのある低い方の東側のフロアを「デイウイング」、寝室、ゲストルーム、バスルームのある高い方の西側のフロアを「ナイトウイング」と名付けた。外部に対しては、リビングの南側の大開口の外に大きく広がるリフレクションポンドや木製の大テラス、そこから空中に突き出した“あずまや”などで、自然とのつながりをより濃くすることを意図している。

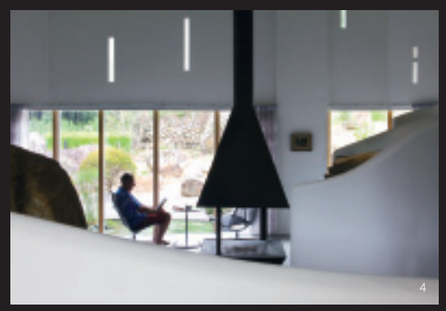
最初に敷地を訪れた時に強烈な印象を受けた、棚田の境目に埋まった幾つかの巨大な転石の1つを「ハートロック」と名付けて家の中心となるリビングの真ん中に据え、そのまわりで展開する暮らしに思いを巡らせた。周囲の山々、谷川、棚田など自然の要素を取り込んで曲面壁や大きなステップ、レベル差などに転化し、機能を与えていくことで、内部と外部、自然側と家、集落側と家、それぞれがお互いに共鳴し合うような家にしたいと考えた。

(内部が外へ広がり、外部が中へ入ってくる仕掛けとして、リフレクションポンドと、光沢ある大版床タイルなどを採用。石にもタイルにも属さない独特の風合いの「タソス」タイルは、キッチン～ダイニングの床として早くから決まっていた仕様のひとつであった。)

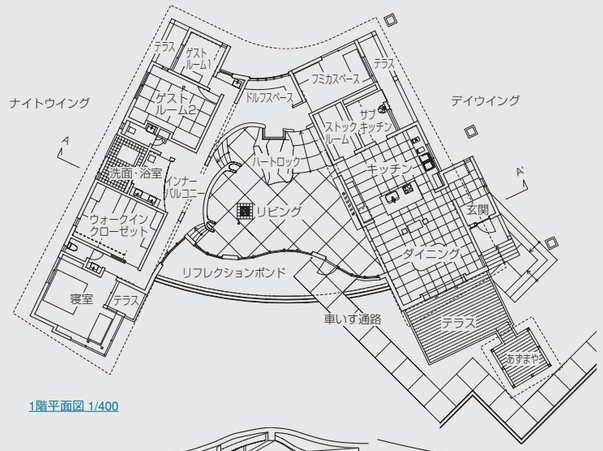
うちの・てるあき――建築家/1963年生まれ。1986年、大阪工業大学卒業。1986–90年、山本西原建築設計事務所(大阪)。1990–91年、海外視察。1991–92年、埴淵建築設計室(徳島)。1992–99年、高崎正治都市建築設計事務所(鹿児島)。1999年、内野輝明建築設計事務所設立(徳島)。2005年、(有)内野設計に改組。
主な作品:風井戸の家[2000]、風待ちの丘[2005]、うずまきハウス[2007]、光井戸のいえ[2008]など。

1――西面全景 | 2――ダイニングからあずまやを見る | 3――南の庭からリフレクションポンド越しにリビングを見る | 4――リビング:左はハートロック[写真4点とも:米津光]





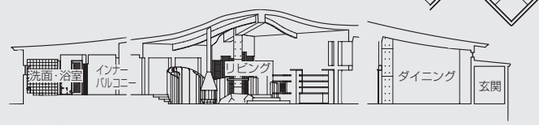
配置図 1/1000



1階平面図 1/400

建築概要

名称:LANDHUIS in Sakawa | 所在地:高知県高岡郡佐川町 | 家族構成:夫婦+猫1匹
敷地面積:930.60m² | 建築面積:361.40m² | 延床面積:330.90m² | 規模:地上1階
構造:RC造+木造 | 工期:2006.11–2008.8 | 設計:内野設計 | 施工:市川興産
●INAX使用商品 | キッチン・ダイニング | 床タイル:タソスホワイト IPF-600T/TW-1



A-A'断面図 1/400

愛宕の山荘

設計：武富恭美/d/dt Arch.

建物と庭の一体感

—

武富恭美 | Yasumi Taketomi

—

愛宕山麓の苔庭

愛宕山の麓は、その昔は人力車で往来していたといわれるだけあって、自動車が1台通れるほどの道幅しかない。浅間石の石垣に挟まれた小径をそろそろと進んでいった先、苔の美しい一帯に敷地はあった。車から降り立ち、緩やかに上ってきた方向を振り返ると、離山が見える。しっとり地面を覆う苔、ゆらゆらとそよぐ樹木の枝葉、その間から見え隠れする離山。恵まれた風景を楽しむ場を敷地に思い浮かべてみた。庭と一体となる空間、浮遊する床、樹上の部屋など、さまざまな場所を立体的にちりばめて、間近の景色を見たり、遠くに眺めたり、仰ぎ見たり、見下ろしたり、時間や季節によって移り変わる自然の中に身を置いて、時を過ごす山荘を考えた。

—

景色が入り込む「の」の字プラン

焼杉板の外壁で「の」の字を描き、その上に敷地の傾斜に沿った1枚の屋根を架ける。庭へ向かって開かれた部分はリビングを中心とした吹抜けとし、大きな窓とテラスを介して庭とつながっている。吹抜け上部には登り梁からライブラリーが吊られ、離山を望むとともに、庭を見下ろすことができる。

庭に見立てた吹抜け空間に回り込んだ焼杉板の外壁に沿って階段を上っていくと、「の」の字の閉じた部分に至る。寝室、浴室などプライベート空間を納めたこの部分は、V字型の木製柱によって樹上の小屋のように空中に持ち上げられ、下部はピロティとなって南北の庭がつながっている。部屋の窓からは間近に木々の枝葉や幹が見え、木立の中に浮かんでいるように感じられる。

庭から建物を眺めるとガラスに木々が映り込み、ハイサイドライト越しに見える木立と相まって、庭が建物の中へと侵入していくようである。日が暮れると風景は一変し、闇の中の行燈のように内部空間が浮かび上がる。

—

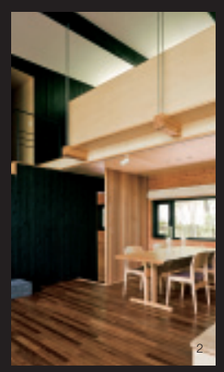
生きた自然と自然素材

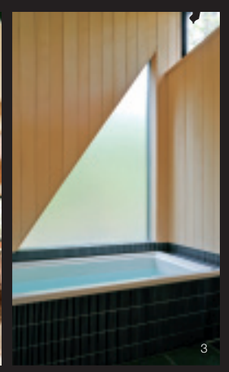
自然は素材として加工される時、生来、内に秘めていた構造を、美しい表情として私たちに見せてくれる。「の」の字の外壁を覆う焼杉板は浮造り[●]され、凹凸となった木目は黒色の中にも陰影を表す。リビング内壁のカラマツ板は、黄白色の地に褐色の模様を描く。浴室内壁のベイヒバは柾目の中に年月を感じさせる。腰壁に張ったボーダータイルが見せる窯変は、釉と炎の気まぐれがもたらす美しさである。

庭、そして周囲の景色が見せる生きた自然の美しさ、そして建物に使用した自然素材が見せる新たな美しさ。普段の都会生活では忘れがちな、自然なくして私たちが生きられないことをこの山荘は知らせてくれる。

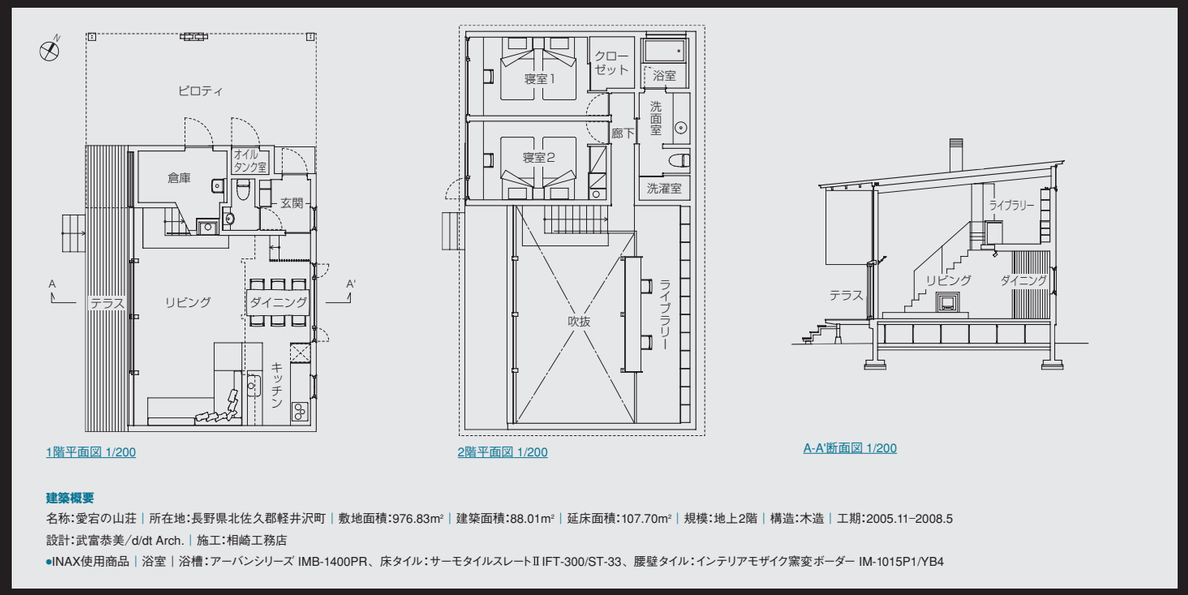
[●]浮造り
木材の表面をこすることによって、硬い木目の部分を際立たせる仕上げ

たけとみ・やすみ―― 建築家/1968年生まれ。1991年、東京大学工学部建築学科卒業。1993年、同大学大学院修士課程修了。1994年、コロンビア大学大学院修士課程修了。1994−2003年、磯崎新アトリエ勤務。2001年、d/dt設立。
主な作品：恵比寿コートハウス[2003]、東麻布の家[2004]、レヴァンテ[2004]、triplex[2007]、南原の山荘[2008]など。





1——南面全景
2——リビングからダイニングを見る
上部は登り梁から吊るされたライブラリー
3——浴室
4——リビングから庭を見る
5——南面外観



1階平面図 1/200　2階平面図 1/200　A-A'断面図 1/200

建築概要

名称：愛宕の山荘 | 所在地：長野県北佐久郡軽井沢町 | 敷地面積：976.83m² | 建築面積：88.01m² | 延床面積：107.70m² | 規模：地上2階 | 構造：木造 | 工期：2005.11−2008.5
設計：武富恭美/d/dt Arch. | 施工：相崎工務店
●INAX使用商品 | 浴室 | 浴槽：アーバンシリーズ IMB-1400PR、床タイル：サーモタイルスレートⅡ IFT-300/ST-33、腰壁タイル：インテリアモザイク窯変ボーダー IM-1015P1/YB4